



私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

人口減少がもたらす競争社会の変容

今年の高校3年生が該当する18歳人口は112万人とされています。現在の民間企業経営者層と学校の校長先生クラスの年代は日本の人口ピラミットの最大幅を形成する団塊の世代から見て10年程度後の世代になり出生数は150万人前後、そこから以降10年間で第2次ベビーブーム世代でその子たちの18歳人口は200万人を突破していたのです。

小・中・高での学力競争、総決算である大学受験、就職、会社での出世競争のいずれの場面でも、200万人が競争するのと112万人で競争するのではその激しさ、希望の通り難さは比較になりません。氷河期世代と言われる社会的不利な状況におかれて来た気の毒な世代は実は18歳人口が200万人超えの多産世代にあたるのです。

当社は創業45年目の警備会社ですが、縁あって書籍販売会社の事業譲渡を検討しています。商店街から個人経営の本屋さんが消え、それらを廃業に追いやった大規模書店が今ではネット販売業者に顧客を奪われ規模縮小から経営難となっています。譲渡事業の成長可能性を精査する段階で2023年の出生数が72万人前後と報告され唖然としました。

現高校3年生/112万人が受験シーズン本番を迎えた光景と昨年2023年に生まれた72万人が受験生になる18年後の光景は異次元の変容となりそうです。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。毎年、これから3月の卒業式に向けて内定者が増えていくのが当社の特徴です。ご連絡をお待ち申し上げます。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「値上げと賃上げが加速する」

目下の日本経済は一時160円/ドルを超える円安をきっかけとした輸入物価上昇に影響をうけた商品値上げが先行するとともに、人材難の需給ギャップ解消に向けた企業の賃上げ競争が鮮明になってきました。賃上げによる人件費増は短期的には企業経営に大きなストレスになることは必至ですが、それをやらねば企業活動が回らなくなり売上減につながる事態となる業種が増えていきます。当社が身を置く警備業界がまさに該当します。

デフレ経済下では値上げ＝売上減という固定観念が社会全体を覆っていました。今回の円安による様々な商品への価格転嫁を実行しても、経営を揺るがすような売れ行き不振が皆無だったことに経営者が自信を持つことが出来たのでしょう。しかし、これまで我慢に我慢を重ねて来た安売り競争の戦術が取り越し苦労だったことに気づくまでにはあまりに時間がかかり過ぎました。

数年前までは最低賃金1000円と聞けば「やり過ぎだろ！」と声が上がりました。しかし、その賃金で月21日、フルタイム働いて、月の手取りが13.5万円程度の国がいやしくも先進国を名乗れるでしょうか。そこから消費税、社会保険料負担とくれば最低賃金は1300円でも少ないくらいです。

「仕事をしないおじさん」と50代、60代社員はレッテルを張られる時代です。「若い頃は頑張った。」と年功序列制度で高収入が保証される時代は終わりました。値上げが出来ない業界は賃上げが出来ない業界なのです。



当社では毎年、たくさんの新卒社員を迎え入れております。ひとりでも多くの若い力を大切に育て上げたい。会社を通して彼らの人間形成の役に立ちたいと存じます。ぜひとも、大切な生徒様の進路先に当社を加えてください。新年度も、東葉警備保障株式会社をどうぞよろしくお願い申し上げます。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「学校の先生が足りない!？」



高知県の2025年度採用の教員採用試験において、小学校教諭として合格した280人のうち7割超の204人が辞退するという事態が発生(29日時点)しています。

かつて学校教員(教育公務員)は自他共に「聖職」と意識され、尊敬され敬われる一目置かれた存在でした。教員を取り巻く労働環境が30年前、20年前、10年前、そして現在と急激に悪化したとは思えません。

私が学校訪問をするようになって、生徒達と校内ですれ違う時に実感するのは、昭和～平成～令和と生徒の気質が驚くほど変わったことです。スーツに身を固めた外部の者(訪問者)が「こんにちは!」と声をかけてもらえる。これ一つとっても昭和の学校では考えられないことです。進学校に位置しない学校は校舎も教室も荒れて、立ち入るにも勇気が要る殺気立った独特の空気があった時代も今は昔です。

生徒・父兄の教員を見る目が変わったのでしょうか。父兄の大学進学率が高まり、教員が評価する者から、評価される者になりました。「聖職者」から「教育サービスの提供者」として顧客・その家族から評価をうける対象になったことも時代の流れでしょう。

教員志望者として人の子です。「割りの合わない仕事」のイメージを割り切れない人が出て来ても文句は言えません。マスコミから「教員はサービス残業が多く、」などと流れてくる情報はどこまで真実かは疑問です。小・中・高を同列に扱えません。ちなみに学校訪問先の高校で17時以降も残っている先生にはまず出会えません。



当社では毎年、たくさんの新卒社員を迎え入れております。ひとりでも多くの若い力を大切に育て上げたい。会社を通して彼らの人間形成の役に立ちたいと存じます。ぜひとも、大切な生徒様の進路先に当社を加えてください。新年度も、東葉警備保障株式会社をどうぞよろしくお願い申し上げます。

松本 隆一郎